

# Green-GO オーディオインタフェースX



既存のインターカムマトリックス、リング/パーティラインシステム、またはその他のアナログコンポーネント/インタフェースを統合するための2ワイヤー/4ワイヤーインタフェースの組み合わせ

2つの入力/出力XLR接続により、2つの別々のオーディオ信号をGreenGOネットワークに供給でき、ネットワーク内の任意のポイントに送信できます。2つの追加のGPIO(汎用入力出力)ソケットは、それぞれ2つのスイッチング入力と2つのスイッチング出力を介して機能を拡張します。

## 概要

## 納入品目

Green-GO オーディオインタフェースXは、次のパッケージコンテンツで提供されます。

### ! 納入品目

- 1 x Green-GOオーディオインタフェース
- 1 x クイックスタートガイド

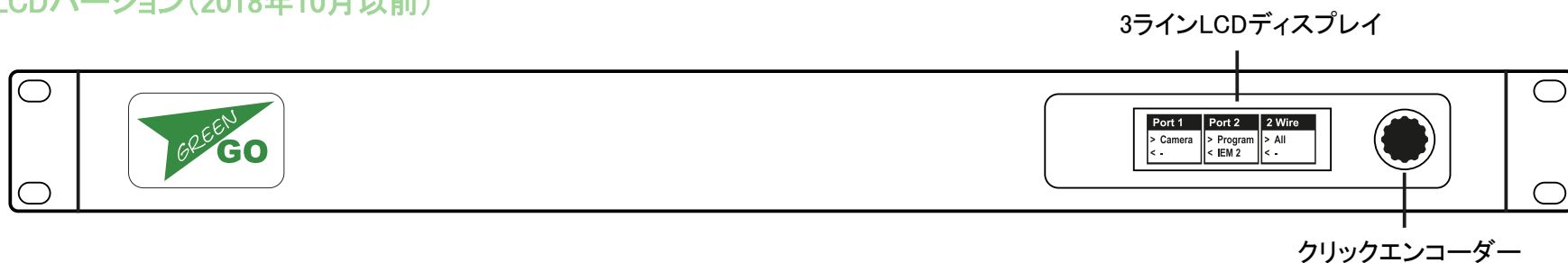
### 🔥 今すぐ購入 ...

- [Audio InterfaceX](#)

## 正面図

2018年の第4四半期に、TFTディスプレイを備えたGreen-GO オーディオインタフェースXの新しいリビジョンが公開されました。それぞれの正面図を以下に説明します。

## LCDバージョン(2018年10月以前)



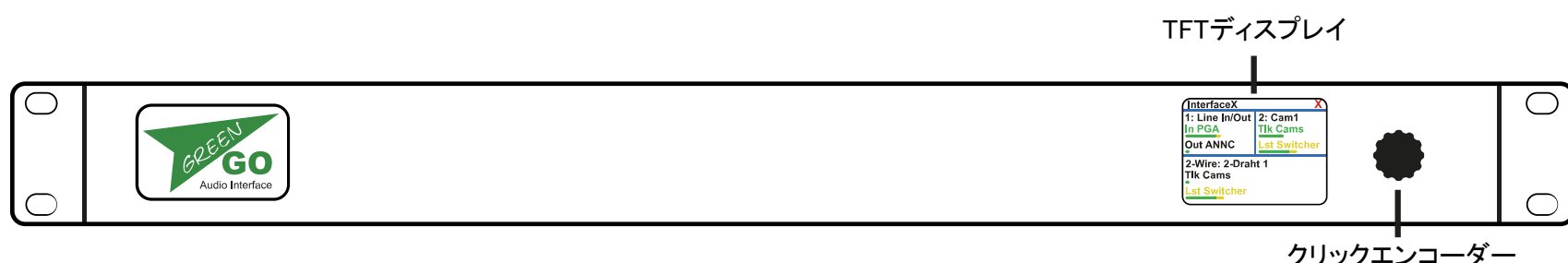
- **3ラインLCDディスプレイ**

前面の3行のドットマトリックスディスプレイは、個々のインターフェースのステータスをユーザーに通知するか、セットアップメニューを表示します。

- **クリックエンコーダー**

クリックエンコーダーは、インターフェースXを設定し、メニューをナビゲートするために使用されます。

## LCDバージョン(2018年10月以後)



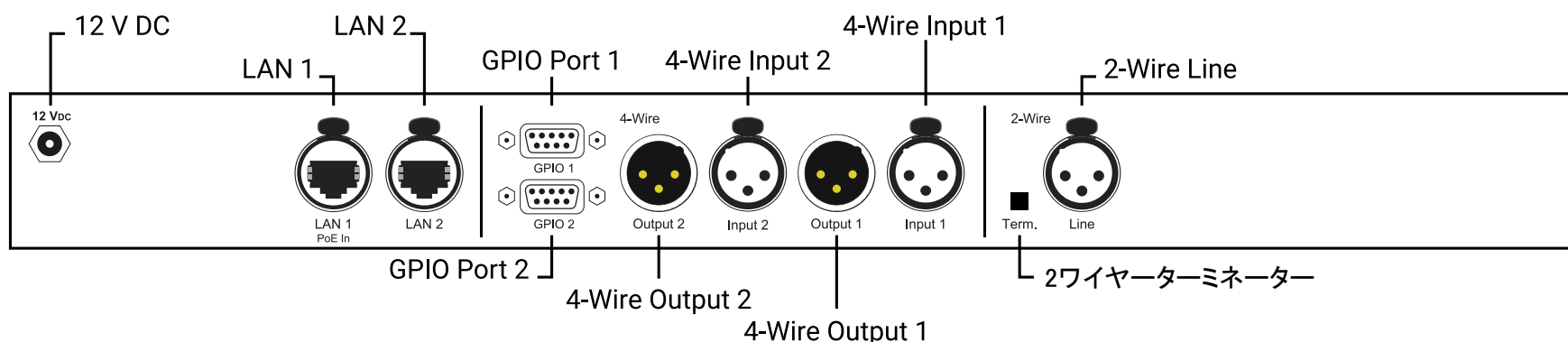
- **TFT-ディスプレイ**

前面のTFTディスプレイは、個々のインターフェースのステータスとレベルをユーザーに通知するか、セットアップメニューを表示します。

- **クリックエンコーダー**

クリックエンコーダーは、インターフェースXを設定し、メニューをナビゲートするために使用されます。

## 背面図



- **12VDC電源接続**

オプションの外部12VDC電源ユニットの接続。

- **LAN 1**

Green-GOネットワークへのデータ接続用に切り替えられた10 / 100MbpsRJ45ネットワークポート。

デバイスには、LAN1ネットワークポートを介して電圧が供給されます。(IEEE 802.3af)

- **LAN 2**

Green-GOネットワークへのデータ接続用に切り替えられた10 / 100MbpsRJ45ネットワークポート。

- **GPIO 1**

GPIO接続は、D-Sub 9コネクタを介して最初の4ワイヤーインタフェースに2つの入力と出力を提供します。これは、外部リレーを介して、最初の4ワイヤーインタフェースのGreen-GOエンジンのすべての機能にリンクできます。

- **XLR3M 出力 1**

これは、最初の4ワイヤーインタフェースのアナログオーディオ出力です。

- **XLR3F 入力1**

最初の4ワイヤーインタフェースのアナログオーディオ入力です。

- **GPIO 2**

GPIO接続は、D-Sub 9コネクタを介して2番目の4ワイヤーインタフェースに2つの入力と出力を提供します。これは、外部リレーを介して2番目の4ワイヤーインタフェースのGreen-GOエンジンのすべての機能にリンクできます。

- **XLR3M 出力2**

2番目の4ワイヤーインタフェースのアナログオーディオ出力です。

- **XLR3F 入力2**

2番目の4ワイヤーインタフェースのアナログオーディオ入力です。

- **XLR3F 2ワイヤーライン**

2ワイヤーインタフェースのアナログ接続です。

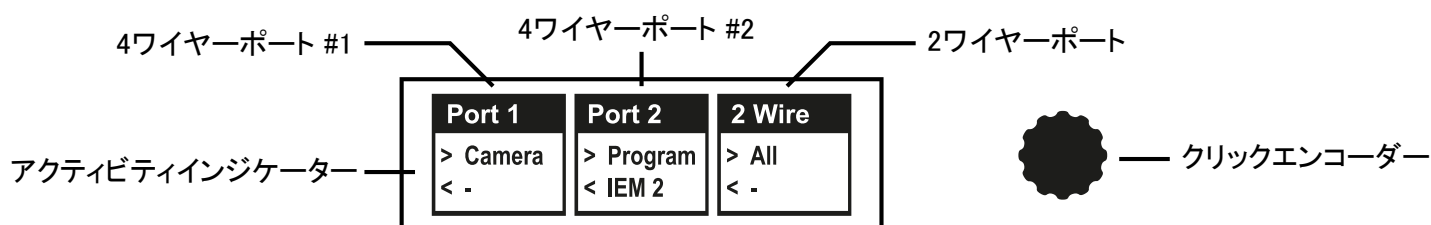
- **2ワイヤーターミネーター**

このスイッチは、使用していない場合に2ワイヤーインタフェースのアナログ接続を終了するために使用できます。

## ユーザーインタフェース

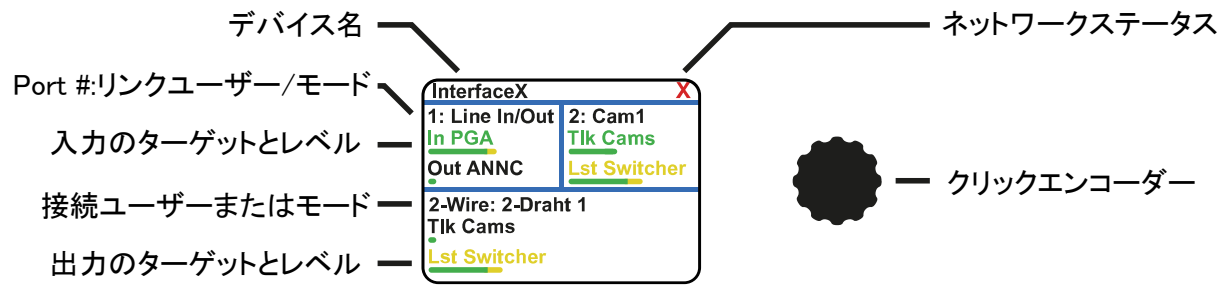
2018年の第4四半期に、TFTディスプレイを備えたGreen-GO オーディオインタフェースXの新しいリビジョンが公開されました。それぞれのユーザーインタフェースについて、以下で説明します。

### LCDバージョン(2018年10月以前)



Green-GO オーディオインタフェースX (Rev.1) のユーザーインタフェースは、3行のLCDディスプレイとクリックエンコーダーで設定されています。

ディスプレイには、メイン画面に2つの4ワイヤー式ポート(ポート1と2)と2ワイヤー式インタフェース(2ワイヤー式)のステータス情報が表示されます。>括弧は、着信オーディオ信号のターゲットを示します。<括弧は、対応するインタフェースを介して現在再生されているソースを示します。



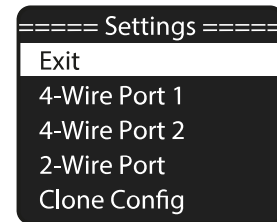
Green-GO オーディオインターフェースX(Rev.2)のユーザーインターフェースは、カラーTFTディスプレイとクリックエンコーダーで構成されています。

ディスプレイには、メイン画面に2つの4ワイヤーポート(ポート1と2)と2ワイヤーインターフェース(2ワイヤー)のステータス情報が表示されます。それぞれのポートの設定(ライン入力/出力モード)に応じてそれぞれのレベルの通信ターゲットとソースがここに表示されます。信号が送受信されるとすぐに、フォントの色が黄色または緑色に変わります。

## 応用例

### セットアップメニュー

セットアップメニューには、クリックエンコーダーを押すだけでGreen-GOインターフェースXからアクセスできます。クリックエンコーダーを回転させてメニューをナビゲートすることもでき、クリックエンコーダーのクリック機能で個々のポイントを確認することができます。



### 4ワイヤー接続

Green-GO オーディオインターフェースXは、それぞれXLR3M出力、XLR3F入力、および2つの入力と出力を備えたGPIO接続を備えた2つの4ワイヤーポートを提供します。4ワイヤーポートの設定は、4ワイヤーポート1および4ワイヤーポート2のメニューで設定できます。

Green-GOオーディオインターフェースXの2つの4ワイヤーポートを介して、4ワイヤーインタコムチャンネルまたは任意のオーディオ信号をGreen-GOシステムに統合またはルーティングできます。各4ワイヤーチャンネルは、2つの異なるモードで操作できます。すべての4ワイヤーポートは同一です。

ユーザーモードでは、チャンネルの優先順位、GPIO、プログラムサウンドなど、Green-GOエンジンのすべての機能が利用可能です。

ライン入力/出力モードでは、機能は最小限に制限され、入力と出力はグループと基本的なオーディオ設定でのみ設定できます。

目的のモードは、[ユーザー/モードの設定]メニューで設定されます。ユーザーモードは、ユーザーが選択されるとすぐにアクティブになります。ラインイン/アウトモードは、ラインイン/アウトモードエントリを介してアクティブ化されます。

## 設定のヒント

### 4ワイヤーポート1を設定します

Setup Menu → 4-Wire Port 1

### 4ワイヤーポート2を設定します

Setup Menu → 4-Wire Port 2

### ライン入力/出力モードで4ワイヤーポートを操作する

Setup Menu → 4-Wire Port 1 / 2 → Set User / Mode → Line In/Out Mode

### 4ワイヤーポートをユーザーモードで操作する

Setup Menu → 4-Wire Port 1 / 2 → Set User / Mode → User

## 4ワイヤーポートをユーザーモードで操作する

ユーザーモードでは、32チャンネルすべて、プログラムサウンド、チャンネル優先度、GPIOなど、Green-GOエンジンのすべての機能を4ワイヤーポートで使用できます。

ただし、ユーザーモードでは、信号送信に必要なチャンネルを常にアクティブにする必要があります。これは、4ワイヤーポートのメニューのAutoTalk機能を使用するか、外部回路と対応するGPIO接続を介して実装できます。

次に、ユーザーモードで4ワイヤーポートを設定する方法について説明します。

1. [ユーザーモードの設定]メニューで、対応する4ワイヤーポートに使用するユーザーを選択します。
2. 選択したユーザーのチャンネル割り当てを確認し、必要に応じて[チャンネル]メニューで調整します。
3. 着信オーディオが正しいチャンネルで自動的に送信されるようにAutoTalk機能を設定します。または、必要に応じて、外部リレーを対応するGPIO接続に接続して、1つ以上の特定のチャンネルを開くこともできます。詳細な説明は、GPIO設定の章にあります。
4. [オーディオ入力/出力]メニューでオーディオ設定を調整します。入力信号のレベルは常に右側に表示されるため、セットアップが簡単です。それぞれの設定項目の詳細については、セットアップメニューの章を参照してください。

### ⚠ オートTalkを忘れずに

Auto Talk機能とリンクされたチャンネルの設定を常に確認してください。これがほとんどの接続問題の原因です。

## チャンネルの割り当てと設定の変更

チャンネルの割り当てと設定は、メニュー項目を使用して設定できます。このメニューから、32チャンネルのすべての設定にアクセスできます。

リストされているすべてのメニューエントリの説明は、セットアップメニューの章にあります。

### 設定のヒント

#### チャンネルを調整する

Setup Menu → Channel Assignment → Channel 1 - 32

## オーディオ設定の調整

オーディオ入力/出力メニューで、入出力ゲイン、ノイズゲートなどを設定できます。

### 設定のヒント

#### オーディオ設定を設定する

Setup Menu → Audio In/Out

## プログラムサウンドの設定

プログラムサウンドは、独立したパッシブなチャンネルを持つGreen-GOエンジンによって生成されます。

グループは常にソースとして設定する必要があります。

メニュー項目の[オーディオのプログラム]では、通信がアクティブなときに、基本音量や減衰などの関連するすべての設定を設定できます。

### 設定のヒント

#### パッシブプログラムサウンドチャンネルを設定する

Setup Menu → Program Audio

## パッシブアナウンスと緊急チャンネルを設定

パッシブアナウンスチャンネルと緊急チャンネルは、Green-GOグループで送信されます。ソースは、[チャンネル割り当て]メニューで設定できます。

ソースは、 Channel Assignment メニューで構成できます。

### 設定のヒント

#### パッシブアナウンスチャンネルを調整します

Setup Menu → Channel Assignment → An:

#### パッシブ緊急チャンネルを設定する

Setup Menu → Channel Assignment → Em:

## GPIO設定

GPIO(汎用入力出力)接続を使用すると、Green-GOエンジンのすべての機能を外部リレーを介して切り替えることが可能になります。

まず、背面のD-Sub9接続は、2つの入力と出力を提供し、次のように割り当てられます。



Pin 1: + 5 V  
Pin 2: Input 1  
Pin 3: Input 2

Pin 4: Output 1 +  
Pin 5: Output 2 +  
Pin 6: Erde 1

Pin 7: Erde 2  
Pin 8: Output 1 -  
Pin 9: Output 2 -

## GP入力

汎用入力を使用すると、さまざまな通信モード(talk、Listen、call、cue)でGreen-GOエンジンのローカルアクションをトリガーできます。

たとえば、フットスイッチを使用して特定のチャンネルへの音声接続を開いたり、カメラCCUを介して別のチャンネルを具体的に開いたりすることができます。

### 設定のヒント

#### GP入力のGreen GO昨日を設定します

Setup Menu → GP Input/Output → Input 1 / 2 → Func

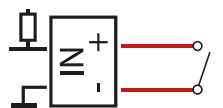
#### 機能のオプションを設定します

Setup Menu → GP Input/Output → Input 1 / 2 → Option

GP入力は、デフォルトでクローズまたはオープンとして設定できます。

デフォルトで開いているリレーは、接点が閉じているときに設定されたアクションをトリガーします。

汎用入力はアースへの接点で閉じられ、+ 5Vで作動します。



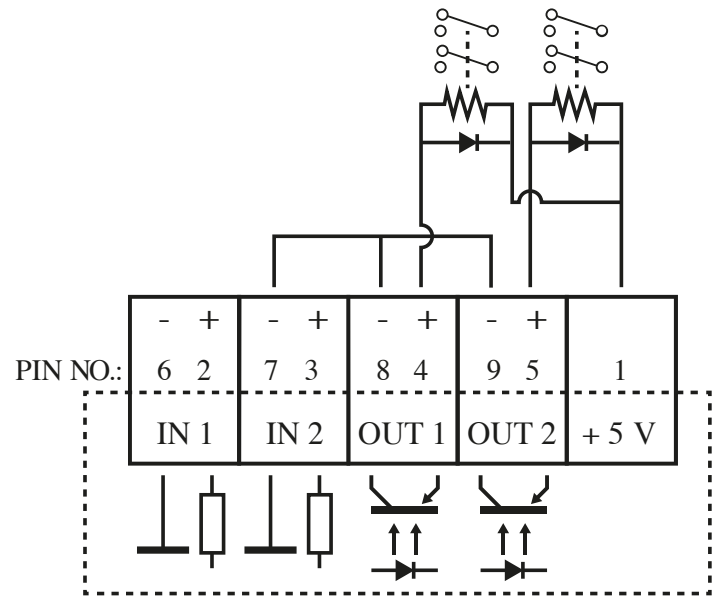
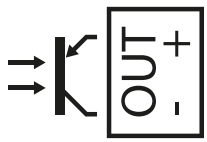
## GP出力

汎用出力により、デバイス/ユーザーに向けられた通信信号(talk、Listen、Call、Cue)を外部リレーのトリガーとして使用できます。

たとえば、着信音声接続を外部デバイスに表示することができます。

GP出力はオプトカップラーです。これは最大5mAおよび50Vとして設計されています。





### 設定のヒント

#### GP出力のアクションを設定します

Setup Menu → GP Input/Output → Output 1 / 2 → Func

### リモートGreen GOネットワークBRIDGEXへの接続を確立する

Green-GOオーディオインタフェースXを外部またはパブリックネットワークを介してGreen-GOネットワークBridgeXに接続することができます。以下では、Green-GO ネットワークBridgeXがユーザーモードで正しく設定されており、着信接続を待機していることを前提としています。Green-GO ネットワークBridgeXの設定の詳細については、対応するマニュアルを参照するか、サポートチームにお問い合わせください。

Green-GO オーディオインタフェースXをリモートのGreen-GOネットワーク BridgeXに接続できるようにするには、次の情報を知っている必要があります。

1. Green-GO ネットワークBridgeXのパブリックIPアドレス
2. Green-GO ネットワークBridgeX のユーザーポート/ストリームのUDPポートとパスワード
3. ローカルネットワーク設定 (IP、サブネットマスク、ゲートウェイ) または正しく設定されたDHCPサーバー  
接続は[接続]メニューで設定されます。パブリックIPアドレス、UDPポート、およびパスワードをここに入力できません。接続が不十分な場合は、SndBufおよびRecvBufオプションを試してみる価値があるかもしれません。

### 設定のヒント

#### DHCPを介した自動ネットワーク設定方法

Setup Menu → Network → Dynamic: On

#### 手動ネットワーク設定方法

Setup Menu → Network → Dynamic: Off



## ラインイン/アウトモードに4ワイヤーチャネルを含める

ライン入力/出力モードでは、対応する4線式ポートにGreen-GOエンジンの機能はありませんが、設定ははるかに簡単です。このモードでは、ソースグループとターゲットグループのみを定義する必要があります。もちろん、入力と出力に対応するオーディオ設定は別々に設定できます。着信オーディオ信号は自動的にターゲットグループにルーティングされ、発信オーディオ信号は常にソースグループから転送されます。

セットアップメニューでライン入力/出力モードがアクティブになっている場合、ライン入力/出力モードの設定オプションのみが表示され、メニューが大幅に短くなります。

### ライン入力

1. ターゲットグループを選択します。
2. ディスプレイの横方向のたわみでオーディオ信号を水平にします。

### ライン出力

1. ソースグループを選択します。このグループからのオーディオ信号は、ライン出力を介して出力されます。
2. 音量と可能なサイドトーンを設定します(ループバック)。

## 2ワイヤー接続

2ワイヤーインタフェースを使用すると、アナログ2ワイヤーインターカムをGreen-GOシステムに統合できます。オーディオ信号だけでなく、伝送モードAC、DC、AC / DCのcallサインもサポートされています。可能な限り最良の統合を可能にするには、オートゼロフィルターを設定する必要があります。このフィルターは、自身のすべてのオーディオ信号をアナログ2線式インタコムにエージングし、Green-GOシステムでエコーやその他のアーティファクトが送信されないようにします。

### ⚠ オートゼロフィルター

オートゼロフィルターのキャリブレーション中は、すべてのエンドデバイスとケーブルが2ワイヤーシステムで接続され、すべてのマイクがミュートされていることを確認してください。オートゼロフィルターは、2ワイヤーインターカムを測定するためにサイントーンを送信します。

1. 2ワイヤーインタフェースに使用するユーザーを選択します。

Setup Menu → 2-Wire Port → Set User/Mode

2. ユーザーのチャネル割り当てを確認し、必要に応じて調整します。

Setup Menu → 2-Wire Port → Channels

3. 着信オーディオ信号が目的のチャネルに自動的に送信されるように、オートtalk機能を設定します。

Setup Menu → 2-Wire Port → AutoTalk

4. 2ワイヤーインターカムの基本レベルを設定します。このインタフェースには、Clear-ComとRTSの2つのプロファイルが付属しています。他のメーカーのシステムは、-18 dB~-6dBの基本レベルで設定できます。

Setup Menu → 2-Wire Port → Audio Line Setup → Mode

5. 2ワイヤーシステムが完全にセットアップおよびテストされていることを確認します。次のステップでは、2ワイヤーシステムのすべてのマイクをミュートすることも重要です。

6. いわゆるオートゼロフィルターを校正します。フィルターの校正中に、サントーンが2ワイヤーシステムに送信されます。フィルターに加えて、キャリブレーションは2ワイヤーシステムとの間の音量も調整します。

Setup Menu → 2-Wire Port → Audio Line Setup → Run Auto Null

7. 必要に応じて、callサインを2線式システムとの間で送受信することもできます。これを行うには、正しい転送モードを設定します。次のモードを使用できます: AC、DCおよびAC / DC

Setup Menu → 2-Wire Port → Audio Line Setup → Callsignal

8. 2ワイヤーシステムのバックグラウンドノイズは、スレッシュホールドで抑制できます。

Setup Menu → 2-Wire Port → Audio Line Setup → Threshold

### ⚠ オートTalkを忘れずに!

AutoTalk機能とリンクされたチャネルの設定を常に確認してください。これがほとんどの統合問題の原因です。

## 設定例

デバイスで現在使用されている設定ファイルを変更することはできません。ただし、セットアップメニューで一時的/ローカルな変更を行うことは可能です。

独自の設定を作成または適合させるには、Green-GO制御ソフトウェアを使用する必要があります。

最も重要な設定ポイントについては、以下で詳しく説明します。設定オプションの完全な概要は、セットアップメニューの章にあります。

これらの設定は再起動後も存続しますが、対応する値が設定ファイルで定義されている場合、新しい設定ファイルを受信してロードしたとき、または別のユーザーがリンクされたときに上書きされます。

## 設定のクローニングとロード

Green-GOエンジンは、ローカルネットワーク内の他のデバイスと常にステータス情報を交換します。Clone Configメニューで、デバイスには、ローカル設定とは異なる、使用済みおよび使用可能なすべての設定ファイルが表示されます。クリックエンコーダエントリをクリックするだけで、さまざまな設定ファイルをロードできます。

ローカルネットワークに異なる設定がない場合、すべての入力は-で表示されます。

デバイスの標準設定ファイルをロードするには、最後に「工場出荷時のデフォルト」リストのエントリーを選択する必要があります。

Green-GO制御ソフトウェアを使用して独自の設定ファイルを作成し、ネットワーク接続を介して1つまたはすべてのデバイスにロードできます。

### 設定のヒント

ネットワークから設定ファイルをロードします

Setup Menu → Clone Config

標準設定ファイルをロードします

Setup Menu → Clone Config → Factory Default

## ネットワーク設定

2つのスイッチド10 / 100Mbps EtherCON接続は、[ネットワーク]メニューで設定する必要があります。使用可能なモードは、動的 / DHCPと手動の2つです。

### Software

Green-GOデバイスのネットワーク設定は、Green-GO アップデート コネクション ソフトウェアを使用して設定することもできます。

#### 動的 / DHCP

動的: Onモードでは、Green-GOデバイスはDHCPサーバーからの応答を約10秒間待機します。この間に応答がない場合、デバイスはRFC 3927 (APIPA、Zeroconf、Bonjour)に従って、169.254.0.0 / 16の範囲のIPアドレスを自分自身に割り当てます。

#### 手動で

動的: オフモードでは、メニューがIPアドレス、ネットマスク、およびゲートウェイの設定に展開されます。

### サブネットマスク

すべてのGreen-GOデバイスで同じサブネットマスクを使用してください！

## 設定のリセット

Green-GO オーディオインタフェースXをリセットする方法は3つあります。

### ソフトリセット

デバイスは、メニュー項目[すべての設定をリセット]([セットアップメニュー]→[情報]→[すべての設定をリセット])を使用してリセットできます。すべてのローカルおよび一時的な変更は、設定ファイルの値またはデフォルト設定のいずれかによって上書きされます。ソフトリセットが発生した場合、最後にアクティブに使用された設定ファイルが保持されます。

## 設定のヒント

### デバイス設定のリセット:

Setup Menu → Info → Reset All Settings

## 設定ファイルをリセット

配信ステータスの設定ファイル (FactDefault) は、Clone Config [#clone-conag]メニューにロードできます。これを行うには、メニューの最後までスクロールして、[工場出荷時のデフォルトをロード]エントリを確認します。

## メモリーリセット

ファームウェアをアップグレードまたはダウングレードするときは、デバイスのメモリーをリセットすることをお勧めします。メモリーをリセットするには、デバイスを強制ブートモードで起動する必要があります。

これを行うには、デバイスの起動時にGreen-GO AudioInterfaceXのクリックエンコーダーを押し続ける必要があります。ディスプレイにGreen-GOboot 1.xforcedと表示されます。

クリックエンコーダーをもう一度押すと、30秒のカウントダウンが開始され、最後にデバイスがデフォルト設定に完全にリセットされます。

変更を正しくロードできるように、後でデバイスを再起動します。

## セットアップメニュー

セットアップメニューは、セットアップメニューの章で説明されているようにアクセスおよびナビゲートできます。サブメニューは、Exit、Cancel、またはSaveのエントリーでいつでも終了できます。

セキュリティプロファイルの設定で許可されている場合、ユーザーはセットアップメニューでデバイスと設定ファイルのすべての設定を調整できます。デバイスにリンクされているユーザーに対して制限設定がアクティブになっている場合、ユーザーは技術ピンコードを入力するように求められます。

## 追加情報

セキュリティプロファイルの詳細については、「接続:セキュリティプロファイル」の章を参照してください。

## 4ワイヤーポート1および2

4ワイヤーポートは常に2つのモードで使用できます。ユーザーモードでは、Green-GOエンジンは、32チャンネル、優先度、GPIO、callサインなどのすべての機能をポートに提供します。

ライン入力/出力モードでは、機能と設定が最小限に抑えられます。グループは、入力および出力の宛先またはソースとして選択できます。

## ユーザーモード

ユーザーモードは、[ユーザー/モードの設定]メニューでユーザーを選択してリンクすることでアクティブになります。Green-GOエンジンのすべての機能の項目を設定することにより、4ワイヤーポートのセットアップメニューが拡張されます。

## チャンネル

このメニューでは、ユーザーはデバイスにリンクされているユーザーのチャンネル設定を変更できます。ユーザーは、すべてのチャンネル設定を調整および変更できます。

- **Channel 1** - **Channel 32**

対応するチャンネルの宛先はここで選択できます。チャンネルに対してターゲットがすでに定義されている場合、これはチャンネルIDの後に表示されます。

### ? **Channel 1** - **Channel 32** チャンネル設定 ↑

- **ID**

チャンネルのID. 設定されている場合、対応するユーザーの名前またはグループもここに表示されます。このエントリを確認すると、選択したチャンネルのターゲットとして、ユーザー、グループ、またはNoneの選択メニューが開きます。

デフォルト: None

#### ☰ **ID** オプションの説明 ↑

- **Group**

ロードされた設定内にあるすべてのグループのリスト。  
ユーザーはここでチャンネルの任意のターゲットを選択できます。

- **User**

ロードされた設定内にあるすべてのユーザーのリスト。ユーザーはここでチャンネルの任意のターゲットを選択できます。

- **None**

チャンネルにはターゲットが定義されていないため、機能はありません。

- **Set Label**

ここで、ユーザーはチャンネルのエイリアスを定義できます。このエイリアスは、ディスプレイにチャンネル名として表示され名前の前に '(アポストロフ)が付いています。

設定にストアされているすべてのユーザーおよびグループを選択できます。

デフォルト: None



- **Group**  
ロードされた設定内にあるすべてのグループのリスト
- **User**  
ロードされた設定内にあるすべてのユーザーのリスト
- **None**  
このチャンネルのターゲットがないため、ラベルがありません

- **Talk**  
ここでは、ユーザーがチャンネルを操作できるかどうか、およびどのように操作できるかを設定できます。4つのオプションが利用可能です: 無効、ラッチ、モメンタリー、ラッチ/モメンタリー

デフォルト: ラッチ/モメンタリー

設定範囲: 無効、ラッチ、モメンタリー、ラッチ/モメンタリー



- **Disabled**  
ユーザーは、設定されたターゲットへの音声接続を開くことができません。
- **Latch**  
ユーザーは、対応する機能キーを押すだけで、設定されたターゲットへの音声接続のためにチャンネルを永続的に開くことができます。もう一度押すと接続が閉じます。
- **Momentary**  
設定されたターゲットへの音声接続を開くには、ユーザーは対応する機能キーを押し続ける必要があります。
- **Latch/Momentary**  
ラッチとモメンタリーの2つのモードの組み合わせ。ユーザーは、対応する機能キーを短く押すか長く押し続けると、対応するモードで操作できます

- **Listen**  
このオプションは、チャンネルをミュートするかどうかを決定します。

デフォルト: On

設定範囲: Off, On

- **Volume**  
チャンネルのボリューム

デフォルト: 0dB

設定範囲: Off, -36dB - +12dB (in 1dB ステップで)

- **Priority**  
チャンネルの優先度。各チャンネルには、[チャンネル割り当て]メニューの3つの優先度のいずれかを割り当てることができます。

デフォルト: Normal

設定範囲: Low, Normal, High



チャンネルの優先度によって、通信がミュート、減衰、または通常の音量で送信されるかどうかが決まります。優先度の高いチャンネルで通信信号を受信するとすぐに、設定に応じて、優先度の低いチャンネルでのすべての通信が減衰またはミュートされます。

通信がどれだけ減衰するかは、オプションメニューで調整できます。

- **Call Send**

ここで、ユーザーがこのチャンネルでcallサインを送信できるかどうかを設定できます。

デフォルト: Enabled

設定範囲: Enabled, Disabled

- **Call Receive**

ここで、ユーザーがこのチャンネルでcallサインを受信できるかどうかを設定できます。

デフォルト: Enabled

設定範囲: Enabled, Disabled

- **An**

パッシブチャンネルアナウンスのソースグループはここで選択できます

デフォルト: None

- **Em**

パッシブチャンネルEmergencyのソースグループはここで選択できます。

デフォルト: None

## オートtalk

このオプションを使用して、着信オーディオ信号の送信先となるリンクユーザーのチャンネルを設定できます。このオプションは常にチャンネルIDを提供します。これは、[チャンネル]メニューに表示されます。

デフォルト: Off

調整範囲 : Off, Kanal-ID 1 - 32

## プログラムオーディオ

プログラムサウンドのパッシブチャンネルの設定メニュー。

ここで、ユーザーは、ロードされた設定の任意のGreen-GOグループを、プログラムサウンドのソースとして使用できます。プログラムサウンドの音量と減衰を設定することも可能です。

- **Mode**

プログラムサウンドのしくみ

デフォルト: Normal

設定範囲: Normal, Local IFB



- **Src**  
ここで、ユーザーは、ロードされた設定の任意のGreen-GOグループを、プログラムサウンドのソースとして定義できます。

**Default:** None

- **Vol**  
ユーザーは送信されるプログラムサウンドの音量を設定できます。

**デフォルト:** 0dB

**調整範囲:** Mute, -36dB - +12dB (1dB ステップで)

- **Dim**  
この設定により、ユーザーは、チャンネルアクティビティ中にプログラムサウンドを減衰させるかどうかとその程度を定義できます。

**デフォルト:** -6dB

**調整範囲:** Mute, -24dB - 0dB (3dB ステップで)

## オーディオ 入出力

リンクされたユーザーのオーディオ設定は、ここで見つけて調整できます。

- **Output**  
設定ファイルに保存されているオーディオプロファイルは、ここにロードできます。

**デフォルト:** None

**設定範囲:** Mute, -42dB - +6dB

- **LoopBack**  
サイドトーン機能の音量

**デフォルト:** Off

**設定範囲:** Off, -39dB - 0dB

- **AutoGain**  
入力信号の自動増幅

**デフォルト:** Medium

**設定範囲:** Off, Slow, Medium, Fast

- **MaxG/Gain**  
AutoGain機能がアクティブな場合の最大ゲイン、または入力信号の一般的なゲイン

**デフォルト:** 50dB

**設定範囲:** +30dB - +60dB (1dB ステップ)

- **Thld**  
ノイズゲート。信号が送信される入力レベルを決定します。

**デフォルト:** -35dB

**設定範囲:** Off, -45dB - -20dB (5dB ステップで)

このオプションの設定が高すぎると、送信されるオーディオ信号が途切れる可能性があります。

- **Hold**

起動後、ノイズゲートを開いたままにしておく時間

デフォルト: Fast

設定範囲: XLong - Fast

- **In**

オーディオソース。ここで、対応する接続がデバイスで利用可能であれば、ユーザーはさまざまなソースから選択できます。

デフォルト: Headset

設定範囲: Line Input, Testton 125Hz - 4kHz

## GP 入出力

利用可能なデバイスの汎用入力および出力の設定メニュー。

各D-Sub9接続には、2つの入力と2つの出力があります。

**!** これらの設定は、工場出荷時の設定では設定されていません!

- **GP Input**

GPIO接続の2つの入力は、このメニューで設定できます。

### ? GP Input オプション設定

- **Func**

ここでは、GP入力がGreen-GOエンジンでトリガーする機能を定義します。

GP入力は、Green-GOエンジンのすべての通信モード(会話、callサイン、または光信号)で信号に応答して送信できます。

デフォルト: None

設定範囲: None, Talk, Call, Cue

### ☰ Func オプションの説明

- **Talk**

着信通信信号に応答するか[#answer]、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルに通話を開くことができます。

オプション範囲: Answer, Channel 1 -Channel 32

- **Call**

デバイスにリンクされているユーザーの特定のチャンネルにcallサインを送信します。

オプション範囲: Channel 1 - Channel 32

## Cue

着信Attention信号の確認を有効にします。デバイスにリンクされているユーザーのチャンネルに任意の光信号(Attention、Hold、GO)を送信することもできます。

**オプション範囲:** Acknowledge, Send Att Chn 1 - Send Att Chn 32, Send Hold Chn 1 - Send Hold Chn 32, Send Go Chn 1 - Send Go Chn 32

## Option

アクティブな機能(Func)に応じて、この設定にはさまざまなオプションがあり、Green-GOエンジンによってどのアクションを実行すべきか決定できます。

**デフォルト:** None

**設定範囲:** None ; (Function: Talk): Answer, Channel 1 - Channel 32 ; (Function: Call):

Channel 1 - Channel 32 ; (Function: Cue): Acknowledge, Send Att Chn 1 - Send Att Chn 32, Send Hold Chn 1 - Send Hold Chn 32, Send Go Chn 1 - Send Go Chn 32

## Optionオプションの設定

### ” オプションの説明 (Funktion: Talk )

機能設定メニューでtalk機能が選択されている場合、ユーザーには次の設定オプションがあります。

#### Answer

このオプションを使用すると、すべての着信通信信号(会話、callサイン)に、対応するチャンネルへの音声接続で応答できます。

#### Channel 1 - Channel 32

これらのオプションによれば、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルへの音声接続を開くことができます。

### ” オプションの説明 (Funktion: Call )

Func設定メニューでCall機能が選択されている場合、ユーザーには次の設定オプションがあります。

#### Channel 1 - Channel 32

これらのオプションによれば、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルへのcallサインを開くことができます。

### ” オプションの説明 (Funktion: Cue )

機能設定メニューでcue機能を選択すると、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

#### Acknowledge

このオプションを使用すると、すべての着信光信号にホールド信号で応答できます。

#### Send Att Chn 1 - Chn 32

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルに注意信号が送信されます。

**Send Hold Chn 1 - Chn 32**

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルにホールド信号が送信されます。

**Send Go Chn 1 - Chn 32**

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルに移動信号が送信されます。

- **Normally Open / Normally Closed**

ここでは、Green-GOエンジンが設定済みのアクションをいつ切り替えるかを設定できます。ノーマルオープンオプションを使用すると、アースへの接点(ピン6および7)が閉じるとすぐに、設定されたアクションが実行されます。

デフォルト: Normally Open

設定範囲: Normally Open, Normally Closed

- **GP Output**

GPIO接続の2つの入力は、このメニューで設定できます。

## ? GP Outputオプション設定

- **Func**

これは、Green-GOエンジンのどの機能がGP出力をトリガーするかを定義します。

GP出力は、Green-GOエンジンの任意の通信モード(会話、コールサイン、または光信号)からの信号によってトリガーできます。

デフォルト: None

設定範囲: None, Active, Call, Cue Receive, Talk

## ☰ Funcオプションの説明

- **Active**

GP出力のトリガーは、デバイスにリンクされているユーザーのすべてまたは特定のチャンネルでの着信です。

オプション範囲: Any Channel, Channel 1 - Channel 32

- **Call**

任意のチャンネルでの着信callサイン

Optionsbereich: Any Channel, Channel 1 - Channel 32

- **Cue Receive**

この機能は、特定の光信号(Attention、Hold、Go)を受信したとき、または2つの特定の光信号(Attention and Hold、Attention and Goなど)に反応したときにトリガーできます。異なる信号は、連続信号またはパルス(点滅)信号として送信されます。

オプション範囲: Hold, Hold Blink, Att, Att Blink, Go, Go Blink, Hold / Att Blink, Hold Blink / Att, Hold / Go, Att / Go

- **Talk**

この機能は、音声接続がいずれかのチャンネルに対して開かれているときに切り替わります。

**Optionsbereich:** Any Channel, Channel 1 - Channel 32

- **Option**

アクティブな機能(Func)に応じて、この設定にはさまざまなオプションがあり、選択した通信モードのどのアクションがGP出力をトリガーするかを決定できます。

デフォルト: None

**オプション範囲:** None ; **(Function: Active):** Any Channel, Channel 1 - Channel 32 ; **(Function: Call):** Any Channel, Channel 1 - Channel 32 ; **(Function: Cue Receive):** Hold, Hold Blink, Att, Att Blink, Go, Go Blink, Hold / Att Blink, Hold Blink / Att, Hold / Go, Att / Go ; **(Function: Talk):** Any Channel, Channel 1 - Channel 32

## ☰ **Option** オプションの説明 ^

### ☞ オプションの説明 (Funktion: Active) ^

機能設定メニューでアクティブ機能が選択されている場合、ユーザーには次の設定オプションがあります。

- **Any Channel**

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの設定済みチャンネルでのすべての着信呼び出しがGP出力をトリガーします。

- **Channel 1 - Channel 32**

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルでの着信callがGP出力をトリガーします。

### ☞ オプションの説明 (Funktion: Call) ^

Func設定メニューでCall機能が選択されている場合、ユーザーには次の設定オプションがあります。

- **Any Channel**

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの設定済みチャンネル上のすべての着信callサインがGP出力をトリガーします。

- **Channel 1 - Channel 32**

このオプションを使用すると、デバイスにリンクされているユーザーの選択されたチャンネルで着信callサインがGP出力をトリガーします。

### ☞ オプションの説明 (Funktion: Cue Receive) ^

機能設定メニューでcue機能を選択すると、ユーザーは次の設定オプションを使用できます。

- **Hold**

GP-Outputこのオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルでの着信ホールド信号によってトリガーされます。対応するGP出力は、信号の持続時間の間切り替えられます。

- **Hold Blink**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルでの着信ホールド信号によってトリガーされます。対応するGP出力は、信号の持続時間中オンとオフに切り替わります。
- **Att**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルで着信アテンション信号によってトリガーされます。対応するGP出力は、信号の持続時間の間切り替えられます。
- **Att Blink**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルで着信アテンション信号によってトリガーされます。対応するGP出力は、信号の持続時間中オンとオフに切り替わります。
- **Go**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルでの着信Go信号によってトリガーされます。対応するGP出力は、信号の持続時間の間切り替えられます。
- **Go Blink**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネルでの着信Go信号によってトリガーされます。対応するGP出力は、信号の持続時間中オンとオフに切り替わります。
- **Hold / Att Blink**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネル上の異なる着信信号によって2回トリガーされます。

  - a. 着信ホールド信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力を切り替えます。
  - b. 着信アテンション信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力のオンとオフを切り替えます。
- **Hold Blink / Att**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネル上の異なる着信信号によって2回トリガーされます。

  - a. 着信ホールド信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力のオンとオフを切り替えます。
  - b. 着信アテンション信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力を切り替えます。
- **Hold / Go**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネル上の異なる着信信号によって2回トリガーされます。

  - a. 着信ホールド信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力を切り替えます。
  - b. 着信Go信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力を切り替えます。
- **Att / Go**

このオプションを使用すると、GP出力は、デバイスにリンクされているユーザーの任意のチャンネル上の異なる着信信号によって2回トリガーされます。

  - a. 着信アテンション信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力を切り替えます。
  - b. 着信Go信号は、信号の持続時間中、対応するGP出力を切り替えます。



## ” オプションの説明 (機能: Talk)

機能設定メニューでtalk機能が選択されている場合、ユーザーには次の設定オプションがあります。

- **Any Channel**

このオプションを使用すると、通話用に開かれているデバイスにリンクされているユーザーのすべてのチャンネルがGP出力をトリガーします。

- **Channel 1 - Channel 32**

このオプションを使用すると、設定されたチャンネルがデバイスによって呼び出しのために開かれたときにGP出力がトリガーされます。

- **Normally Open / Normally Closed**

ここでは、設定された条件が満たされた場合にGP出力を切り替える方法を設定できます。ノーマルオープンオプションでは、接点は+ 5V(ピン1)に対して閉じられます。

デフォルト: Normally Open

設定範囲: Normally Open, Normally Closed

- **Test**

の機能を使用すると、設定された条件を満たさなくても外部リレーをテストできます。

デフォルト: None

設定範囲: None, Closed, Open

## 追加情報

詳細については、デバイスドキュメントの「GPIO設定」の章を参照してください。

## オプション

一般的なユーザー関連のオプションはここにあります。

- **Active Time**

ユーザーが着信通信信号に応答する必要がある時間(秒単位)。この設定は、対応するファンクションキーまたはステータスLEDが着信callを表示する時間も決定します。

デフォルト: 5, 0s

設定範囲: 0, 5s - 45s

- **Tone**

すべてのアラーム信号の音量

デフォルト: -12dB

設定範囲: Off, -49dB - 0dB



- **Priority Dim**

優先度の高いチャンネルがアクティブな場合に、チャンネル上の通信をどれだけ減衰させるかを決定します。

デフォルト: -6dB

設定範囲: Mute, -24dB - 0dB (1dB ステップで)

 **設定のヒント** ^

チャンネルの優先度は、チャンネル割り当て[#channel-assignment]メニューで調整できます。

- **Direct Volume**

2人のユーザー間の直接通話のボリューム

デフォルト: +12dB

デフォルト: Mute, -36dB - +12dB

- **Direct Priority**

2人のユーザー間の直接通話の優先度

デフォルト: Normal

設定範囲: Normal, AutoTalk, Ignore

- **AutoTalk**

アクティブな場合、設定されたユーザー入力の着信オーディオ信号は、ここで定義されたチャンネルに自動的に送信されます。

デフォルト: Off

設定範囲: Off, チャンネル-ID 1 - 32

- **Cue Mode**

デバイスが着信光信号を処理する方法を設定できます。

デフォルト: Normal

設定範囲: Normal, AutoTalk, Ignore

- **Output Cue Time**

Go信号(光信号)がアクティブに保たれている時間。

デフォルト: 5s

設定範囲: Off, 0.5s, 1s, 2s, 3s, 5s, 3s, 12s, 15s, 20s, 25s, 30s, 45s, 60s

## ユーザー/モードの設定

このメニューでは、デバイスにリンクされているユーザーを選択または変更できます。

- **Line In/Out Mode**

このエントリーは、ライン入力/出力モードをアクティブにします。ターゲットおよびソースグループの設定は、4ワイヤーポートのセットアップメニューで設定できるようになります。

- **ID**


ユーザーIDと、該当する場合はユーザー名がここに表示されます。ユーザーを選択すると、ユーザーモードがアクティブになります。

## 接続

4ワイヤーポートの接続タイプの定義。このサブメニューには、現在の接続モードと関連する設定項目が表示されます。モードを変更するには、現在アクティブなモードを選択する必要があります。

- **Local Connection**

Green-GOデバイスがローカルネットワークで通信する通常のタイプの接続です。

 このタイプの接続は、工場出荷時の設定でアクティブになっています!

- **Remote Connection**

このタイプの接続を使用すると、ユーザーはリモートのGreen-GO ネットワークBridgeXへの接続を確立できます。

### Remote Connection オプションの設定

- **Password**

Green-GOネットワークBridgeXポート/ストリームのパスワードをここに入力する必要があります。

デフォルト: None

- **Generate Password**

このオプションを使用して、ランダムなパスワードを生成できます。

デフォルト: None

- **Remote Port**

リモートGreen-GOネットワークBridgeXポート/ストリームのUDPポート。

デフォルト: None

- **Remote IP**

リモートGreen-GOネットワークBridgeXのパブリックIP。

デフォルト: None

- **Backup**

この設定は、緊急接続のIPアドレスを定義します。

デフォルト: None

- **SndBuf**

待ち時間を補正するためのバッファ

デフォルト: None

- **RcvBuf**

待ち時間を補正するためのバッファ

デフォルト: None

## Line 入出力モード

4ワイヤーポートは、ライン入力/出力モードですばやく簡単に設定できます。それぞれの接続に必要なグループを選択し、オーディオ設定を設定するだけです。

⚠ これらの設定は、工場出荷時の設定では設定されていません!

- **In**  
4ワイヤーポートのXLR3Fライン入力の宛先はここで設定できます。

### ? Line Input オプション設定

- **Group**  
Green-GO グループは、XLR3ライン出力を介してオーディオ信号を送信します。  
デフォルト: None
- **AutoGain**  
XLR3Fライン入力からの入力信号の自動増幅。  
デフォルト: Off  
設定領域: Off, Fast, Medium, Slow
- **MaxG/Gain**  
AutoGainオプションがアクティブな場合、ゲインの制限をここで設定できます。それ以外の場合、このオプションは通常のゲインとして機能します。  
デフォルト: +11dB  
設定領域: -9dB - +31dB (1dB ステップで)
- **Threshold**  
いわゆるノイズゲート信号が送信される最小レベルを決定します。  
デフォルト: -35dB  
設定領域: Off, -45dB - -20dB (1dB ステップで)

このオプションの設定が高すぎると、送信されるオーディオ信号が途切れる可能性があります!

- **Hold**  
起動後、ノイズゲートを開いたままにしておく時間  
デフォルト: Fast  
設定範囲: Off, XLong, Long, Medium, Fast
- **Bandwidth**  
伝送品質を定義します: 通常(7kHz)、拡張(14kHz)  
デフォルト: Normal  
設定範囲: Normal, Enhanced

- **Line Output**  
4ワイヤーポートのXLR3Mライン出力のソースはここで設定できます。ライン出力のソースはここで設定できません。

### ? Line Output オプションの設定

- **Group**  
Green-GO グループは、XLR3Mライン出力を介してオーディオ信号を送信します。

デフォルト: None

- **Output**

ライン出力ボリューム

デフォルト: 0dB

設定範囲: Mute, -42dB - -24dB (3dB ステップで), -24 dB - +6dB (1dB ステップで)

- **Loopback**

XLR3Fライン入力からXLR3Mライン出力に入力信号を送信します。

デフォルト: Off

設定範囲: Off, -42dB - -24dB (3dB ステップで), -24 dB - +6dB (1dB ステップで)

- **Main Mix Output**

デバイスにリンクされているユーザーの音声合計をXLR3Mライン出力にミックスします。

デフォルト: Mute

設定範囲: Mute, -48dB - -30dB (3dB ステップで), -30 dB - 0dB (1dB ステップで)

## 2ワイヤーポート

### プログラム 入力

プログラムサウンドのパスシブチャンネルの設定メニュー

ここで、ユーザーは、ロードされた設定の任意のGreen-GOグループを、プログラムサウンドのソースとして定義できます。プログラムサウンドの音量と減衰を設定することも可能です。

- **Src**

ユーザーは、ロードされた設定の任意のGreen-GOグループを、プログラムサウンドのソースとして定義できます。

デフォルト: None

- **Vol**

ここで、ユーザーは送信されるプログラムサウンドの音量を設定できます。

デフォルト: 0dB

設定範囲: Mute, -36dB - +12dB (1dB ステップで)

- **Dim**

この設定により、ユーザーは、チャンネルアクティビティ中にプログラムサウンドをミュートするかどうかとその程度を定義できます。

デフォルト: -6dB

設定範囲: Mute, -24dB - 0dB (3dB ステップで)

## チャンネル

このメニューでは、ユーザーはデバイスにリンクされているユーザーのチャンネル設定を変更できます。ユーザーは、すべてのチャンネル設定を調整および変更できます。

- **Channel 1** - **Channel 32**

対応するチャンネルのターゲットはここで選択できます。チャンネルに対してターゲットがすでに定義されている場合、これはチャンネルIDの後に表示されます。

### ? Channel 1 - Channel 32 チャンネル設定

- **ID**

チャンネルのID。設定されている場合、対応するユーザーの名前またはグループ名もここに表示されます。このエントリを確認すると、選択したチャンネルのターゲットとして、ユーザー、グループ、またはNoneの選択メニューが開きます。

デフォルト: None

#### ☰ ID オプションの説明

- **Group**

ロードされた設定内のすべてのグループのリスト。  
ユーザーはここでチャンネルの任意のターゲットを選択できます。

- **User**

ロードされた設定のすべてのユーザーのリスト。ユーザーはここでチャンネルの任意のターゲットを選択できます。

- **None**

チャンネルにはターゲットが定義されていないため、機能はありません。

- **Set Label**

ユーザーはチャンネルのエイリアスを定義できます。このエイリアスは、名前の前に「'」(アポストロフ)が付いたチャンネル名としてユーザーに表示されます。

設定に格納されているすべてのユーザーおよびグループを選択できます。

デフォルト: None

#### ☰ Set Label オプションの説明

- **Group**

ロードされた設定内のすべてのグループのリスト

- **User**

ロードされた設定内のすべてのユーザーのリスト

- **None**

このチャンネルにはターゲットが定義されていないため、ラベルはありません。

- **Talk**

ここでは、ユーザーがチャンネルを操作できるかどうか、およびどのように操作できるかを設定できます。4つのオプションが利用可能です：

デフォルト: Latch/Momentary

設定範囲: Disabled, Latch, Momentary, Latch/Momentary

### ☰ **Talk** オプションの説明 ↑

- **Disabled**

ユーザーは、設定されたターゲットへの音声接続を開くことができません。

- **Latch**

ユーザーは、対応する機能キーを押すだけで、設定されたターゲットへの音声接続のためにチャンネルを永続的に開くことができます。もう一度押すと接続が閉じます。

- **Momentary**

設定されたターゲットへの音声接続を開くには、ユーザーは対応する機能キーを押し続ける必要があります。

- **Latch/Momentary**

ラッチとモメンタリーの2つのモードの組み合わせ。ユーザーは、対応する機能キーを短く押すか、長く押し続けると、対応するモードを操作できます

- **Listen**

このオプションは、チャンネルをミュートするかどうかを決定します。

デフォルト: On

設定範囲: Off, On

- **Volume**

チャンネルのボリューム

デフォルト: 0dB

設定範囲: Off, -36dB - +12dB (1dB ステップで)

- **Priority**

チャンネルの優先度。各チャンネルは、[チャンネル割り当て]メニューの3つの優先順位のいずれかで設定できます: Low, Normal, High

デフォルト: Normal

設定範囲: Low, Normal, High

### ☰ **Priority** オプションの説明 ↑

チャンネルの優先度によって、通信がミュート、減衰、または通常の音量で送信されるかが決まります。優先度の高いチャンネルで通信信号を受信するとすぐに、設定に応じて、優先度の低いチャンネルでのすべての通信が減衰またはミュートされます。

通信がどれだけ減衰するかは、オプションメニューで調整できます。

- **Call Send**

ユーザーがこのチャンネルでcallサインを送信できるかどうかを設定できます。

デフォルト: Enabled

設定範囲: Enabled, Disabled

- **Call Receive**

ユーザーがこのチャンネルでcallサインを受信できるかどうかを設定できます。

デフォルト: Enabled

設定範囲: Enabled, Disabled

- **Bandwidth**

ローカルのGreen-GOエンジンがオーディオ信号を送信する際のオーディオ品質を設定できます。通常は約7kHz / 16ビットで送信し、拡張は約14kHz / 16ビットのオーディオ帯域幅で送信します。

この設定は、DECT接続では効果がありません。DECT送信では、オーディオ信号は最大7kHz / 16ビットで送信されます。

デフォルト: Normal

設定範囲: Normal, Enhanced

- **An**

パッシブチャンネルアナウンスのソースグループは、ここで選択できます。

デフォルト: None

- **Em**

パッシブチャンネルエマージェンシーのソースグループは、ここで選択できます。

デフォルト: None

## AutoTalk

このオプションを使用して、着信オーディオ信号の送信先となるリンクユーザーのチャンネルを設定できます。このオプションは常にチャンネルIDを提供します。これは、[チャンネル]メニューに表示されます。

デフォルト: Off

設定範囲: Off, チャンネル-ID 1 - 32

## オーディオラインの設定

リンクされたユーザーのオーディオ設定は、ここで見つけて調整できます。

- **Mode**

2-Wire Mode.

デフォルト: Clear-Com (-13dB)

設定範囲: Clear-Com (-13dB), RTS (-5dB), -18dB - -6dB

- **Run Auto Null**

オートゼロフィルターを校正します。アクティブな場合、ディスプレイには「自動ヌル」と表示されます。

- **Callsignal**

2ワイヤーシステムとの間のcallサインの送受信を設定します。



デフォルト: AC/DC

設定範囲: DC, AC, AC/DC

- **Thld**

ノイズゲート。信号が送信される入力レベルを決定します。

デフォルト: -35dB

設定範囲: Off, -45dB - -20dB (5dB ステップで)

- **Hold**

起動後、ノイズゲートを開いたままにしておく時間

デフォルト: Fast

設定範囲: XLong - Fast

- **To 2-Wire**

このオプションはカスタマイズできますが、通常は「自動ヌルの実行」機能によって自動的に設定されます。

デフォルト: -dB

設定範囲: -40dB - 0dB (1dB ステップで)

- **From 2-Wire**

このオプションはカスタマイズできますが、通常は「自動ヌルの実行」機能によって自動的に設定されます。

デフォルト: -dB

設定範囲: 0dB - +40dB (1dB ステップで)

- **Null on Boot**

デバイスの起動時に「RunAutoNull」機能を実行します。

デフォルト: Disabled

設定範囲: Disabled, Enabled

- **DSP Active**

2ワイヤーインタフェースの専用DSPの現在の状態を表示します。

## Options

一般的なユーザー関連のオプションはここにあります。

- **Active Time**

ユーザーが着信通信信号に応答する必要がある時間(秒単位)。この設定は、対応するファンクションキーまたはステータスLEDが着信callを表示する時間も決定します。

デフォルト: 5, 0s

設定範囲: 0, 5s - 45s

- **Tone**

すべてのアラーム信号の音量

デフォルト: -12dB

設定範囲: Off, -49dB - 0dB

- **Priority Dim**

優先度の高いチャンネルがアクティブな場合に、チャンネル上の通信をどれだけ減衰させるかを決定します。

デフォルト: -6dB

設定範囲: Mute, -24dB - 0dB (1dB ステップで)

### ☰ 設定のヒント ^

チャンネルの優先度は、チャンネル割り当て[#channel-assignment]メニューで調整できます。

- **Direct Volume**

2人のユーザー間の直接通話の音量

デフォルト: +12dB

設定範囲: Mute, -36dB - +12dB

- **Direct Priority**

2人のユーザー間の直接通話の優先度

デフォルト: Normal

設定範囲: Normal, AutoTalk, Ignore

- **AutoTalk**

アクティブな場合、設定されたユーザー入力の着信オーディオ信号は、ここで定義されたチャンネルに自動的に送信されます。

デフォルト: Off

設定範囲: Off, チャンネル-ID 1 - 32

- **Cue Mode**

デバイスが着信光信号を処理する方法を設定できます。

デフォルト: Normal

範囲設定: Normal, AutoTalk, Ignore

## ユーザー/モードを設定する

このメニューでは、デバイスにリンクされているユーザーを選択または変更できます。

- **Line In/Out Mode**

ライン入力/出力モードをアクティブにします。ターゲットおよびソースグループの設定は、4ワイヤーポートのセットアップメニューで設定できるようになりました。

- **ID**

ユーザーIDと、該当する場合はユーザー名がここに表示されます。ユーザーを選択すると、ユーザーモードがアクティブになります。

## 接続

4ワイヤーポートの接続タイプの定義。このサブメニューには、現在の接続モードと関連する設定項目が表示されます。モードを変更するには、現在アクティブなモードを選択する必要があります。

- **Local Connection**

Green-GOデバイスがローカルネットワークで通信する通常のタイプの接続です。

**⚠ このタイプの接続は、工場出荷時の設定でアクティブになっています!**

- **Remote Connection**

このタイプの接続を使用すると、ユーザーはリモートのGreen-GO ネットワークBridgeXへの接続を確立できます。

**? Remote Connection オプションの設定**

- **Password**

Green-GOネットワークBridgeXポート/ストリームのパスワードをここに入力する必要があります。

デフォルト: None

- **Generate Password**

このオプションを使用して、ランダムなパスワードを生成できます。

デフォルト: None

- **Remote Port**

リモートGreen-GOネットワークBridgeXポート/ストリームのUDPポート

デフォルト: None

- **Remote IP**

リモートGreen-GOネットワークBridgeXのパブリックIP

デフォルト: None

- **Backup**

この設定は、緊急接続のIPアドレスを定義します。

デフォルト: None

- **SndBuf**

待ち時間を補正するためのバッファ

デフォルト: None

- **RcvBuf**

待ち時間を補正するためのバッファ

デフォルト: None

## クローンコンフィグ

このメニューでは、他のGreen-GOデバイスの設定をネットワークからロードできます。このメニューのタイトルには、現在使用されている設定ファイルのファイル名が表示されます。

終了エントリーの下に(見つかった場合)、ローカルで使用されているものとは異なる設定ファイルが表示されます。

このメニューの最後に、配信ステータスの標準設定をロードできるオプションがあります。

- **Konfigurationsdateinamen**

このメニューには、ローカルで使用されているものとは異なる、ローカルネットワークで見つかったすべての設定ファイルが表示されます。別の設定ファイルが見つからない場合は、-のみが表示されます。エントリを確認すると、別のメニューが開き、タイムスタンプと設定ファイルのソースが表示されます。

- **Factory Default**

ユーザーが工場出荷時の設定の設定ファイルをロードできるようにします。

## ネットワーク

デバイスのEtherCON接続のネットワーク設定。ユーザーは、ダイナミックオンとダイナミックオフの2つの動作モードから選択するオプションがあります。メニュー項目[動的オン/オフ]をクリックするだけで、ユーザーはモードを切り替えることができます。

ダイナミックオフモードでは、EtherCON接続のIPアドレスなど、追加の設定項目でメニューが拡張されます。

- **Dynamic On**

このモードは、DHCPサーバーを介してネットワーク設定を取得しようとしています。これが失敗した場合、デバイスは、RFC 3927 (APIPA、Bonjour、Zeroconf)に従って169.254.0.0/16の範囲のIPアドレスを自分自身に割り当てます。

**⚠ このモードは工場出荷時の設定で有効です!**

- **Dynamic Off**

このモードでは、ネットワーク設定を手動で設定するための設定項目が提供されます。

### Dynamic Off オプションの説明

- **IP Address**

デバイスのIPアドレス

**⚠ 基準を守ってください!**

ローカル/プライベートネットワークでも使用することを目的としたIPアドレス用の領域のみを使用してください。これらはRFC1597標準で定義されています。

ネットワークアドレス範囲	CIDR表記	サブネットマスク	アドレス	クラス
10.0.0.0 bis 10.255.255.255	10.0.0.0/8	255.0.0.0	16.777.216	クラス
172.16.0.0 bis 172.31.255.255	172.16.0.0/12	255.240.0.0	1.048.576	クラス
192.168.0.0 bis 192.168.255.255	192.168.0.0/16	255.255.0.0	65.536	クラス

- **Netmask**

サブネットマスク。これにより、デバイスがローカルで通信できるネットワークアドレス範囲が決まります。

デフォルト: 255.255.0.0

**!** どこでも同じサブネットマスクを使用してください！

- **Gateway**

デバイスが外部ネットワークアドレス範囲内のルーターを介して通信できるゲートウェイのアドレス。この設定は、リモート接続にのみ必要です。

デフォルト: 0.0.0.0

## デバイスオプション

デバイス固有の設定はここにあります。

- **Backlight**

画面照明のタイムアウト

デフォルト: Always On

設定範囲: Always On, 10s, 30s, 1m, 10m, 30m, 1h, 2h

- **Display**

このオプションを使用すると、ディスプレイを180° 回転させることができます。

デフォルト: Normal

設定範囲: Normal, Flipped

## 情報

このメニューには、すべての重要なデバイス設定が表示されます。ほとんどのメニュー項目をクリックすると、このメニューを終了できます。

- **Name**

Green-GOソフトウェアで設定されたデバイス名

- **Config**

Green-GOソフトウェアで設定されたデバイス名

☰ **Config** オプションの説明 ^

- **FactDefault**

ロードされた設定ファイルのファイル名

- **17h28:38**

設定ファイルへの最後の変更の時刻

- **29 Nov 2018**

設定ファイルへの最後の変更の日付

- **Access Protections**

設定ファイルで[ブロックの読み取り]設定がアクティブかどうかを示します。  
この設定は、Green-GO コントロールソフトウェア の[ConfigurationSettings]→[Generic]で設定でき、ソフトウェアインスタンスがデバイスの設定をロードまたは変更できないようにします。

- **SN**

デバイスのシリアル番号

- **InterfaceX 4a61**

ロードされたファームウェアを表示します

- **IP**

現在使用されているデバイスのIPアドレス

- **Mac**

デバイスのMACアドレス

- **Reset All Settings**

デバイスで行われたすべてのローカル設定または一時設定(ネットワーク設定、オーディオおよびチャンネル設定など)をリセットします。

## 技術仕様

### 一般

	Audio InterfaceX
寸法 (H/B/T):	44 mm x 483 mm x 155 mm
質量:	2,48 kg
接続:	3 x Neutrik XLR3F, 2 x Neturik XLR3M, 2 x D-Sub 9 F, 2 x Neutrik EtherCON, 1 x 12 V DC Input
電源:	PoE (48V), 12 V DC-電源(オプション)
消費電力:	Max:6W, Typ:5W

## 安全上の注意と証明書

### ⚠ 注意

デバイスを湿気にさらさないでください。電気ショックの危険があります！

- CE-宣言
- 安全指示(英語)安全指示(英語)



# トラブルシューティング

## デバイスは、ローカルネットワークを介して他のデバイスと通信できません

この誤動作にはいくつかの原因が考えられます。次のすべてが満たされていることを確認してください。

- ネットワーク設定は、すべてのGreen-GOデバイスで正しく設定されています。設定されたIPアドレスに重複がないか確認し、サブネットマスクがどこでも同一であることを確認してください。
- すべてのデバイスが同じ設定ファイルを使用します。すべてのデバイスの情報メニューで、またはGreen-GO制御ソフトウェアを介して、現在ロードされている設定ファイルを確認します。
- チャンネル割当メニューで対応するチャンネル設定を確認してください。Talk設定が無効に設定されている場合、音声接続用にチャンネルを開くことはできません。
- デバイスのオートTalk設定を確認してください。

## 設定された入力からの信号は途切れ途切りに転送されます。

自分のオーディオ信号が途切れ途切りに送信される場合は、オーディオ設定のしきい値設定を確認する必要があります。しきい値が高すぎると、マイクが時間内に開かない可能性があります。さらに、切り替え時間が短すぎると、ホールドオプションがマイクを早く閉じる可能性があります。

## システムにエコーがあります。

Green-GO Controlソフトウェアを使用して、エコーを生成している参加者を確認し、オーディオ設定を調整します。音量(ボリューム/ゲイン)が高すぎると、スレッショルドが低い場合にエコーが発生する可能性があります。

### 利用のヒント

アクティブな参加者は、緑色のフォントカラーを使用してデバイスリストから識別できます。対応するデバイスを選択すると、チャンネル番号の前にある緑色のボールでアクティブなチャンネルを識別し、ダブルクリックしてミュートすることができます。

## GPIOポートを設定できません。

対応する4ワイヤーポートがユーザーモードになっていることを確認してください。GPIO設定は、ライン入力/出力モードでは使用できません。

## システムでcallサインがおかしくなっています。

2ワイヤーシステムがGreen-GO callサインと互換性があることを確認してください。

Green-GOは、AC、DC、DC / ACのバリエーションをサポートします。疑わしい場合は、2ワイヤーセットアップの通話の設定をオフに設定するだけです。

## GREEN-GO オーディオインタフェースXIはGREEN-GOシステムのハムまたはオーディオ・アーティファクトを誘発します。

以下の点を確認してください。



1. Green-GO 2ワイヤーインタフェースと2ワイヤーシステムの「マスターステーション」の電位が同じであることを確認します。
2. 2ワイヤーシステムの「オープン」ラインを220オームで終端します。
3. Green-GO 2ワイヤーインタフェースの接続ケーブルを確認/交換してください。

#### ファームウェアの更新は成功しませんでした。

ファームウェアの更新が正常に完了しなかった場合は、このプロセスを簡単に繰り返すことができます。ファームウェアをインストールしてデバイスを損傷することはありません。

すべての試行が失敗した場合は、デバイスを強制ブートモードで起動して、再試行してください。Green-GO アップデート接続ソフトウェアを使用してファームウェアを転送します。

1. デバイスの電源を切ります。
2. 起動時にクリックエンコーダーを押し続けます。
3. ディスプレイにGreen-GO強制ブート1.Xと表示されます。

#### 注意

強制起動モードのデバイスでは、常にDHCPネットワーク設定(動的:オン)がアクティブになっています。ネットワークにDHCPサーバーがない場合、デバイスは169.254.0.0/16の範囲のIPアドレスを割り当てます。